

右絵図、西（両カ）川附村々七拾九ヶ村田畑家流失、流死人

一惣高合壹万六千六百八拾壹石貳斗四升六合

内五千三百七拾八石壹斗四升八合 流失

家数千八拾貳軒 流失 御領・私領共二

残家惣人数飢人三千五拾貳人 内男千七百六拾貳人

女千貳百九拾人

男女千六百七拾四人 流失死人

馬五百五拾疋 流死

信州・上州・武州灰砂泥火石、用水往還用

水除（よけ）御普請場所、都合七百三ヶ村

割 役 群馬郡渋川旅宿

御勘定御吟味役

御組頭 ◆根岸九郎左衛門

◆根岸鎮衛（ねぎしやすもり）一七三七―一八一五（元文二―文化十二）江戸後期の幕臣。

通称鉄蔵、九郎左衛門。守信とも。肥前守。父安生^{あんじょう}定洪^{さだひろ}は相模の出身、御家人株を

取得し代官となる。鎮衛は根岸家に養子に入り、勘定奉行・江戸南町奉行まで異例の昇進

を遂げた。入墨があり、巷間には人気があった。随筆「耳囊」を著す。『岩波日本史辞典』